【進路選択について】

1 進路選択でNGな方法について

(1) 周りの意見を聞いて自分で調べない

進路選択は「今後の人生」を決める重要なイベントです。周りに勧められたとしても、進路選択は自分で決めるものです。話し合うこと・調べることは必ず行いましょう。そのうえで、納得できれば勧められた道に進む選択肢もあります。また、進路選択の際にネットで調べた情報を鵜呑みにしてしまう人もいます。友達との会話もそうですが、「～は評判が悪い」が本当なのかは自分の目で確かめましょう。自分で確かめる方法は、公式サイトを見る、資料を取り寄せる、オープンキャンパスに行くなどがあります。進路選択は周囲の意見を参考にしつつ、自分でも調べましょう。

(2) 「なんとなく」役に立ちそう

「将来、役に立つ」と言われている資格や仕事を知ることが大事なことです。しかしながら、進路選択をする上で「なんとなく」は危険です。これから先の人生、その仕事と向き合っていく必要があります。「なんとなく」で進路選択をすると、やる気の低下も早まると言われています。役に立つけど、興味のあることや苦手ではないことかどうか考えましょう。

(3) 目的意識を明確に持たない

進路選択をする上で大切なことは大学名や企業名ではなく、自分が何のために何をしたいのかという目的や目標、理由です。例えば「〇〇大学に行って、教員免許がほしい」「△△会社で××の仕事をしたい」など、明確な目的も考えましょう。

2 進路選択の方法は3つ

(1) 好きなことから探していく

好きなことや関心のあることを書き出していきます。進路選択で何が大切かということ、自分の興味関心を知ることです。例えば、「映画が好き」「YouTubeが好き」などの趣味に関することや、「プールに通っていた」「サッカー部だった」など高校生になる以前のことも含め、たくさん書いてみましょう。それらを書き出したら、次は「なぜ好きなのか」「どうして続けられたのか」「どんなところが好きなのか」を書き出します。

(2) 将来をイメージする

仕事だけではなく、どんな生活をしたいか、どんな暮らしをしたいかも考えてみましょう。将来のことをイメージすることはとても大切です。たとえば将来、田舎で暮らしたい場合は家を買うために余裕を持って貯金ができるような仕事を探すという方法があります。また、バリバリ働きたいのであれば、ベンチャー企業や一人ひとりの個性を大事にしている企業を目指すのもよいでしょう。

裏面へ→

仕事を軸にしなくても、「好きなアイドルのライブ費用が欲しい」という人は自分に負担のない仕事で、シフトの融通が利くところを探すという方法もあります。仕事から絶対に探さなくてはならないというルールはないのです。

(3) 自己分析する

進路選択をするためには、自分のことを深く知ることも大切です。生まれてから高校生である今までの人生を振り返り、価値観や興味のあること・ないこと、得意なこと・不得意なことに気が付いていきます。高校生のうちにやっておくことで進路選択だけではなく、進学の際の面接や就職面接にも役立ちます。例えば、大学に進学する場合は学部を決める、受験する大学を絞る、受験科目を確認するなどです。志望大学を絞る際は、資料請求とオープンキャンパスに行くことが必須です。大学や専門学校を絞る際のポイントは、「学びたいことが学べるか」「サポートなど制度が充実しているか」「施設設備が整っているか」「アクセスがよいか」「理念や方針がっているか」など様々です。どの進路選択を考えるとときも何を大事にしたいのか考えることは大切です。

3 進路選択で知っておきたいこと

(1) 特定の分野の幅広い知識を学びたいなら「大学」

大学進学は就職する際の進路選択の幅が広いと言われています。それは、例えば同じ経済学部出身でもサービス業に勤める人もいれば、金融や保険会社で勤める人もいるからです。経済学の必修科目で全体像を掴み、選択科目でさらに知識を深めていくことができます。大学は4年分の学費が必要になります。また、入試も合格に向けた勉強が必要です。入学後の大変さと言えば「自己管理」です。高校までと異なり、自分で必要な単位を調べて授業を選ぶ必要があります。また、課題などの提出は教室で一斉にではない場合もあるので、自分で期限や提出方法は把握する必要があります。

(2) 即戦力を目指すなら「専門学校」

専門学校は専門分野の知識と実践力を身につけられます。また、多くの専門学校は、最新の道具を使える施設設備が充実しているところも多いです。さらに、資格取得に力を入れており同じ目標を持つ人たちが集まります。専門分野を極める分、その道には進みやすいですが他の道に行くとすると、自分自身で改めて勉強する（もしくは再進学する）必要が出てきます。進路を決める時期にはすでに、その専門でいく覚悟を持つことが必要です。

(3) 自分で稼ぐ力をつけたいなら「就職」

高卒で就職する場合、周りが就職するころには社会人5年目。就職先によりますが、学歴ではなく正当な評価をしてくれる会社なら出世の道も早いです。10代から働くため、同世代よりも経済的に余裕が出てきます。就職したいなら、まずは希望の業界や職種が高卒で応募可能かを確認しましょう。また、初任給は大卒よりも少ない傾向があることから生涯賃金もその分少なくなると言われています。頑張って出世することで挽回できる可能性もあります。